やすうら元気印

思いつくことを絵手紙で表現

原（はら）　年永（としえ）さん　TEL84-5530

絵手紙作家
原　年永さん

安登に在住の原年永さん（62才）は美術館で展示依頼があるほど有名な絵手紙作家。作品は，絵と言葉で気持ちを表現した，手作りの暖かさと人柄が伝わってきます。

現在，中国新聞呉文化センターで月2回の教室と，月刊くれえばんのギャラリーでも教室を始めるなど，忙しい日々を送っています。教室では，温かい指導と楽しい雰囲気で生徒から大人気。思いつくことを書いたものが共感と感動を呼び，生徒が最後まで辞めずに続くことだそうです。こんな原さんでも，子供の頃は習字や絵を描くことが大の苦手だったとか。それを克服したから，弱い人や生徒の気持ちも良くわかるそうです。普段は，ごく普通の主婦で，「先生と呼ばれるのが嫌で，今でも生徒から教わることが多いんです」と苦笑い。地元では，安登小学校の2年生に絵手紙を教えています。

「一人ひとりの個性を大切に楽しい講座を続けていきたい」と元気で明るくキラリと光る姿が印象的でした。

安登小学校の教室

おもてなしの演出　駅前の美化と安全を見守る

廿日出元晴さん

安浦駅前の県道歩道と水路を美化活動をしている内海在住の廿日出元晴（71才）さん。

毎年，夏になると水路にヘドロが溜まり悪臭が激しいため，平成20年から一人でコツコツと美化活動に取り組まれて来ました。

同時に菖蒲を植栽し，フェンスを利用してプランターに季節の花を植え，歩行者の目を楽しませています。

「朝・夕の水やりと管理は大変だけど，みんなの喜ぶ顔が見たいから」と，人のお世話をするのが大好きな廿日出さん。まちづくり協議会・ライオンズクラブ・清盛ロケのエキストラなど，地元のボランティア活動にも精力的に参加しています。また，毎月1の付く早朝は，交通安全の街頭指導に休むことなく立たれ，通学児童の安全を見守っています。

現在は，平清盛の「のぼり旗」が立ち並び沿道が華やか。「安浦の玄関として少しでもお役に立てれば」と控えめに美化に努める駅前の花咲じいさんです。

沿道の花と清盛旗

水路の菖蒲

春の風物詩・シロウオ漁

シロウオ漁

野呂川と中畑川が合流するところにそびえ立つ建物。これは，春の時期だけに見られるシロウオ漁の施設です。昔は何軒かあったようですが，今は松岡さんだけとなってしまいました。

2月の中旬から仕掛け（ヤナ）を作り，本格的な漁は3月から4月20日頃まで行われます。漁は1日2回，潮が満ち始めるとシロウオが川を上がっていき，V字になったヤナの先の籠に追いつめられる仕組みです。夜になると，シロウオ以外に，スズキやカニなども入ってくるとか。

漁を始めて40年の松岡緑さん。年齢を聞くと，「まだ80才ですわい!」と軽快な声が返ってくるほど明るくお元気です。現在は親子で漁を営み松岡商店で販売しています。

おいしい食べ方は，「躍り食いはもちろん，かき揚げ･卵とじなども美味です。」と語っていました。

安浦でただ一軒となったシロウオ漁。

伝統がいつまでも続いてほしいものです。

松岡　緑さん（80才）

松岡　一弘さん（50才）

松岡商店（内海）84－2122

まちづくり情報誌

TANTO（たんと）

No.11

発行　平成24年5月10日

安浦町まちづくり協議会　〒737-2516　呉市安浦町中央4丁目3-2（呉市役所安浦市民センター内）　電話：0823-84-2261（年4回発行）

NHK大河ドラマ「平 清盛」

ロケに携わった安浦人たち！

シリーズ第1回

若部海メンバー6名たち

今年の1月からＮＨＫ大河ドラマが放送され，見慣れた安浦の風景も画面を通じて全国にPRすることができました。

そこで，今回からシリーズで「安浦ロケ」に関わった方たちを紹介します。

第1回目は，史上最大規模の海上ロケを可能にした「安浦漁協若部海」を紹介します。代表の，山根周志さん（37才）にエピソードを伺うと，「今までで一番熱い夏でした」と笑顔で応えてくれました。役割は，柏島のロケ地づくりにはじまり，200人を超える役者・スタッフ・機材の運搬，7隻の撮影用「和船」をポイントまで曳航し，アンカー留めなどが主な作業だったとか。カメラマンを乗せた船上では「この場所でキープ！」と簡単に撮影スタッフは口々に言うのですが，「ここは海の上！風もあれば潮流もあるのでキープは難しいンですよ…」という会話があちらこちらであったようです。約1ヶ月近くに渡り，ドラマ史上最大の海上ロケを陰で支え，三津口湾を知り尽くした彼らだからこそ出来得たことだと思います。

役者の輸送協力

柏島沖の会場ロケ（船上）

撮影協力（柏島沖）

主役の松山ケンイチさんと若部海

漁協とボランティア有志がスクラム！

〜安浦かき祭り〜

2月26日（日）実成新開グランドで，晴天のもと「第5回安浦かき祭り」が開催されました。入場者は7,300人。殻付きかき12,000個・かきむき身800Kgが早々に完売。大盛況のうちに終わりました。会場では，かきの炉端焼きやオリジナルかき料理，地元特産品など振る舞われ，冬の味覚を満喫。当日は，まちづくり協議会や地元団体など，約70名を超えるボランティアが集結し盛り上げました。主催の安浦漁協青年部「若部海」は，お客様はもちろんのこと，お手伝いの方も，参加して良かったと思えるイベントにしていきたい」と，来年に向けて張り切っていました。

大活躍のボランティアスタッフ

おでかけ情報

5月

第一回きらめき音楽館　5月12日（土）11:00～	安浦公民館きらめきホール
いなし安浦青空市　5月19日（土）8:00～	いなしふれあい広場

6月

蛍・月・笛の会　6月2日（土）18:30～	盛川酒造㈱　有料、定員50名
柏島大祭　6月9日（土）・10日（日）	三津口桟橋から定期船あり（有料）
第二回きらめき音楽館　6月10日（日）11：00～	安浦公民館きらめきホール
安浦のホタル　6月初旬～	野呂川沿い（市原～原畑）・中畑他
いなし安浦青空市　6月16日（土）8:00～	いなしふれあい広場

7月

第三回きらめき音楽館　7月7日（土）11：00～	安浦公民館きらめきホール
いなし安浦青空市　7月21日（土）8:00～	いなしふれあい広場

やすうら夢工房ブログ　安浦町のまちづくり・話題・イベント情報を日々発信しています！

やすうら夢工房　検索　で検索してね。

安浦に新しいパン工房がOPEN!

障害のある人が地域の中で働きながら，いきいきと生活することを目指し，焼きたてパンと雑貨のお店を始めました。

店名「ブロット」は，ポルトガル語で新芽・若葉という意味で，これから地域で根付き，羽ばたこうとするパン工房にとっては素敵なネーミングではないでしょうか。

作ること・食べること・感動することを通じて，人と人がつながりみんながハッピーになることを願い，スタッフ全員で楽しんで活動していこうと思います。是非一度お気軽にお立ち寄りください。

●店舗名
BROTO（ブロット）

●住所：呉市安浦町中央５丁目１２－１５
●電話：８４－３８６８
●営業時間：10:00～16:00　　定休日：土・日・祝

危険箇所に手作り看板を設置

まちづくり協議会　看板分科会

安登駅と中切から弘法寺・野呂山へ向かう道しるべ，三本松公園の案内板が長年の劣化で文字がまったく見えなくなっていました。そこで，まち協の看板分科会メンバーが手作りでの修復作業を行い，見違えるほど立派な案内板に復元しました。登山者からは，「名所や史跡もよくわかりこれから安心して登れますね」と感謝の声。

また，学童通学路・事故注意・高潮注意の看板を，（有）若元工業さんの協力により製作。事前に調査した町内の危険箇所等に設置していきました。メンバーからは，「皆さんひとりひとりの心がけと願いを込めて安心・安全な町づくりに少しでもお役にたてれば」と語っていました。

まちづくり協議会では，今後も地域の実情に応じた看板設置やマップ作りなど，ボランティアメンバーが一生懸命頑張っていきます。

まちづくり協議会ホームページ「やすうら夢工房」を開設

情報満載のホームページ

今年の２月１０日，安浦の情報を発信するホームページ「やすうら夢工房」を開設しました。

旬な話題やお店・暮らしに役立つ情報など，「安浦のタウン誌」として目指していきます。開設したばかりですが，これからどしどし更新しますのでお楽しみに。制作から更新まで全て，事業企画部のメンバーが行っています。掲載してほしい情報がありましたら，お気軽にお知らせください。

アドレスはこちら　http://www.yasuura-yumekobo.com/
または，「やすうら夢工房」で検索

これまで通り，ブログ「やすうら夢工房」も更新しますのでよろしくお願いします。
お問合せ先：安浦町まちづくり協議会（安浦市民センター内）　電話：84-2261

晩春～初夏の風物　野山は山菜でいっぱい！

桜の季節も終わり，野山は山菜シーズン。三本松公園周辺ではワラビ・ゼンマイなどの山菜を求めて，多くの家族連れの姿が見られます。

野道には，タラの芽も大きくなっていますが，ヤマウルシの芽に似ていますので注意してください。

※毒草には注意してください。
（ニリンソウと間違えてトリカブトの葉を食べた事件がありました。）

伝説と昔話　第１話
安浦の民話シリーズ

内海　弥四郎塚

安浦町は古い歴史を持つ町です。各地区に集落があり，生活していくなかで，数々の民話や伝説が生まれてきました。

子から孫へと後世に残る素晴らしい贈り物。各地に残る，古くから語り継がれてきたお話をシリーズで紹介します。

昔，安浦湾がずっと奥の方まで入江のころ，中山のすぐ麓まで波が寄せていて，北からは十王川（野呂川）が，南には南川（中切川）が流れていました。この２つの川は，野呂山から流れてくるため，沢山の水ばかりでなく洪水をおこし，土や大きな石まで運んできて，河口の浦尻あたりに積まれ，人々は困り果てていました。しかし，人々は石を取り除き，田んぼを作ったり，畑にして蕎麦や麦などを植えていました。もともと砂の多い所で，少し日照りが続くと，地面はひからびて，せっかく育てた農作物がだめになっていました。

この浦尻に弥四郎という人が住んでいて，こんなにたっぷり流れている南川（中切川）の水を使って何とか立派な農地にできないものかと，いつもいつも考えていました。

ある時，向山の岩神の畑にいた弥四郎がふと中切村の方を見ると，南川（中切川）が浦尻よりも高い所でキラキラ光っているのが目に入りました。「よし，これだ！」 そう思った弥四郎は，家に帰ると早速図面を作ってみましたが，水をせき止めることは出来ても，そこから田への水路を造ることは困難でした。それからというもの弥四郎は，この水路のことばかり考えていました。

ある日，夕食を早く済ませた弥四郎が，岩神の畑に上がって考えていた時，中山の岡ん田あたりから，麻畠に向かって何やら三つばかり赤い火が動いているのに気づきました。

不思議に思いよく見ると，それは山かげを中切村に行く人が持つたいまつの火でした。しばらくぼんやり見つめていた弥四郎は，はたとひざを叩いて慌てて家に帰りました。

やがて弥四郎は里の人たちに水路の話をして回りました。人々も自分たちの田や畑に水が来るのならと，早速中切村の許しをもらい，若宮神社の前あたりを水の取り入れ口と決め，郷橋の西まで 1.5 kmの水路を引く工事に着手しました。

水路は傾きが一番大切なので弥四郎は同じ長さの杭とたいまつを何十本も作り傾きを見ていきました。

そして，間隔をあけて同じ長さの杭を打ち込むと，弥四郎は岩神の畑に上がって夜を待ち，一斉にたいまつに火を付けて部分部分の高さを，何度も何度も繰り返しながら，水路を造り上げていきました。やっと，待ちに待った水路が出来上がり，里の大人からお年寄り，子どもまで，水路に集まり，水が来るのを今か今かと見つめていました。

しばらくして，ひとすじの水が流れ始め，まもなく沢山の水がどっと走ってきました。人々からどよめきと歓声が聞こえ，この工事が出来上がったことを心から喜び，夜遅くまでお祝いの席が続きました。その後，だれからともなく，この水路を「弥四郎いぜ」と呼ぶようになり，1.5 ヘクタールもの広い土地の隅々まで，水が送られています。

現在は，JR 呉線や国道で昔のものは変わっていますが，弥四郎さんを浦尻の恩人として岡ん田の西に「弥四郎塚」が建てられ，また岩神の畑を「弥四郎畑」と呼んで，いつまでも弥四郎さんを忘れないようにしています。

弥四郎水路

今も残る弥四郎塚

※「いぜ」とは田に引く水の水みちのことを言います。

写真でみる今と昔　安浦アーカイブ

時代とともに様変わりする景色や人々の暮らし。安浦の懐かしい風景と今をご覧下さい。

ＪＲ安浦駅

昭和 10 年の　安浦駅（三津内海駅）開業当時

現在

安浦駅前

昭和 42 年の安浦駅前

現在